

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予報第5号を下記のとおり発表したので送付します。

令和6年度病害虫発生予報第5号

令和6年7月30日
岡山県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量
水稲	葉いもち(中生種、晩生種)	—	やや少
	穂いもち(極早生種、早生種)	—	やや少
	紋枯病	—	並
	白葉枯病	並	並
	穂枯れ(早生種、中生種)	—	やや多
	ニカメイガ	並	並
	セジロウンカ	—	やや多
	トビイロウンカ	並	やや少
	イチモンジセセリ	並	やや少
	コブノメイガ	—	やや少
	カメムシ類	—	並
ダイズ	べと病	—	並
	紫斑病	—	並
	ハスモンヨトウ	—	並
モモ	モモハモグリガ	—	やや少
	ナシヒメシンクイ	—	やや多
	ハダニ類	—	並
ブドウ	さび病	並	並
	褐斑病	—	並
	べと病	—	並
	ブドウトラカミキリ	並	並
	フタテンヒメヨコバイ	並	並

ほぼ平年並とされており、発生を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 昨年多発生した圃場では伝染源が多いと考えられるので、圃場をよく観察し、適切に防除を行う。

(4) 白葉枯病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月22～24日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 台風による暴風雨や豪雨による浸冠水は本病の発生を助長し、急激にまん延する場合があるため、豪雨により浸冠水した圃場では、発生状況をよく観察し、適切に防除を行う。

(5) 穂枯れ（ごま葉枯病菌による穂枯れ：早生種、中生種）

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 7月22～24日の巡回調査によると、県内全域での葉におけるごま葉枯病の発生圃場率は4.5%で平年（3.8%）並であった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件となる。

(6) ニカメイガ（第2世代幼虫）

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、7月4半旬までに誘殺は認められず、平年（0頭）並であった。

イ. 7月22～24日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

(7) セジロウンカ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における7月1～4半旬の飛来数は、18頭で平年（9.5頭）より多かった。

イ. 7月22～24日の巡回調査によると、発生圃場率は62.5%で平年（34.7%）より高く、すくい取り（20回振り）調査での成幼虫数は29.6頭で平年（19.1頭）より多かった。

ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

(8) トビイロウンカ

予報内容

発生時期 並
発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 赤磐市の予察灯では7月1～4半旬の飛来を認めておらず、平年（0.9頭）よりやや少なかった。
- イ. 7月22～24日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年（0.6%）よりやや低かった。すくい取り（20回振り）調査では発生を認めておらず、発生圃場率は平年（0.7%）より低かった。
- ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

- ア. 圃場をよく観察し、要防除水準（成幼虫合計で株当たり10頭以上又は短翅型雌成虫で株当たり0.2頭以上）を超える圃場では、直ちに防除を徹底する。
- イ. 本虫は圃場内に局在し、また稲の株元に集中するので、より多くの稲の株元を丁寧に観察する。

(9) イチモンジセセリ（第2世代幼虫）

予報内容

発生時期 並
発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 7月22～24日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年（2.8%）よりやや低かった。
- イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

(10) コブノメイガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 7月22～24日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年（6.2%）より低かった。
- イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

(11) カメムシ類

予報内容

発生時期 並

予報の根拠

- ア. 赤磐市の予察灯における7月1～4半旬のアカスジカスミカメの誘殺数は449頭で平年（437.6頭）並であった。また、真庭市の予察灯における7月1～4半旬の誘殺数は、50頭で平年（68.7頭）並であった。
- イ. 7月18、23日の県北部イネ科牧草地のすくい取り調査（20回振り）では、アカスジカスミカメの発生量は1地点当たり22.1頭で平年（63.2頭）より少なかった。

ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

エ. 植物防疫情報第5号（令和6年7月18日発表）参照。

（ダイズ）

（1）べと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

（2）紫斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

（3）ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）のフェロモントラップにおける7月1～4半旬の誘殺数は265頭で、平年（268.6頭）並であった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

2 果 樹

（モ モ）

（1）モモハモグリガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～4半旬の誘殺数は0頭で、平年（0.7頭）よりやや少なかった。

イ. 7月16日の巡回調査では発生を認めず、平年（0%）並であった。

ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

（2）ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～4半旬の誘殺数は14頭で、平年（14.9頭）並であった。

イ. 7月16日の巡回調査によると、発生圃場率は42.9%で平年（27.7%）よりやや高かった。

ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は

ほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

(3) ハダニ類

予報内容

発生時期 並

予報の根拠

ア. 7月16日の巡回調査によると、発生圃場率は21.2%で平年(24.8%)並であった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

(ブドウ)

(1) さび病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月16日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で、平年(2.7%)並であった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月24日の県予察圃場での発病葉率は34.2%で平年(43.5%)並であった。

イ. 7月16日の巡回調査によると、発生圃場率は18.2%で平年(30.9%)より低かった。

ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(3) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月24日の県予察圃場での発病葉率は30.8%で平年(37.8%)並であった。

イ. 7月16日の巡回調査によると、発生圃場率は90.9%で平年(83.6%)並であった。

ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月16日の巡回調査において平年同様発生を認めなかった。

(5) フタテンヒメヨコバイ (第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月16日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(1.4%)並であった。

3 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月24日の県予察圃場での発病葉率は20.5%で、平年(39.1%)並であった。

イ. 7月18、19日の巡回調査によると、発生圃場率は60.0%で平年(70.3%)並であった。

ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

(2) うどんこ病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月24日の県予察圃場での発病葉率は0.9%で、平年(22.4%)より低かった。

イ. 7月18、19日の巡回調査によると、発生圃場率は10.0%で平年(34.0%)より低かった。

ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

(3) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月24日の県予察圃場での発病葉率は68.7%で平年(35.5%)より高かった。

イ. 7月18、19日の巡回調査によると、発生圃場率は20.0%で平年(34.5%)よりやや低かった。

ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月18、19日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(6.0%)並であった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

(2) 葉かび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月18、19日の巡回調査によると、発生圃場率は9.1%で平年(17.1%)よりやや低かった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月18日の巡回調査によると、発生圃場率は25.0%で平年(35.7%)並であった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

(1) キスジノミハムシ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月18日の巡回調査によると、ダイコンでの発生圃場率は0%で平年(19.8%)よりやや低かった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)の黄色水盤への7月1~4半旬の飛来数は39頭で平年(59.7頭)よりやや少なかった。

イ. 7月18、19日の巡回調査によると、トマトでは発生圃場率が0%で平年(30.9%)より低く、キュウリでは40.0%で平年(35.3%)並であった。

ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月18、19日の巡回調査によると、露地野菜（ナス、キュウリ）での発生量は平年並であった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）のフェロモントラップにおける7月1～4半旬の誘殺数は265頭で、平年（268.6頭）並であった。

イ. 7月18、19日の巡回調査によると、ナス、キュウリでは平年同様発生を認めなかった。

ウ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

4 花き類

(キ ク)

(1) ハダニ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月18、19日の巡回調査によると、発生圃場率は25.0%で平年(8.5%)よりやや高かった。

イ. 7月25日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、 <https://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

